

向陽台高校日記

「出会い」篇

作 / 東木康尚

編 / 妹尾青泷

登場人物

小澤アツシ (16) 一途な少年

竹内ナミ (16) 天真爛漫、明るい少女

片山修 (17) 物理部部长

中学を卒業したアツシは公立高校に入学。その4日後から物語は始まる。

#1

朝。遅刻しそうなアツシは慌てて登校。

校門の辺りで女子生徒(ナミ)とぶつかってしまう。

アツシ うわ！

ナミ きゃっ！

荷物をばらまくアツシ。

ナミ ご、ごめんなさい！

アツシ いえ・・・あつ、携帯・・・壊れてないみたい。

ナミ 本当にごめんなさい。急いでいたものでしたから・・・。

アツシ (ドキッ)俺も・・・寝坊しちゃって・・・大丈夫？

ナミ あれ・・・？小澤君だよな？

アツシ ・・・・？どうして知っているのですか？

ナミ クラス一緒じゃん。竹内ナミだよ。昨日一人ずつ自己紹介したじゃない。忘れたの？

アツシ　いえ・・・あっ、そうでした。

始業チャイムの音

ナミ　あ、いつけなーい！遅刻しちゃう。じゃ、先に行ってるね、小澤君。

ナミリン、ダーツシユ！

アツシ　ああ、ちょっと・・・(小さく)アツシもダーツシユ！

アツシ、ナミの後を追うように校舎へ。

#2

午後。帰りのエロが終わわり、アツシは教室から出る。アツシの手には入部届けの用紙。物理部の部屋に入る。

アツシ　失礼します。

片山　おっとっと、入部希望者かい？珍しいこともあるもんだ。

アツシ　はい。一年の小澤アツシです。

片山　おお、新入生か。ははは、俺か？俺は向陽台高校物理部ジェネラルマネージャーの片山修だ。「サム」と呼んでくれ。ところでバイザウエイ、入部届はもう提出したのかな？

アツシ　はい！顧問の先生に提出しました。

片山　そかそか。ほんじゃ、そこ座って。それでは手始めに軽くココの活動について説明しよう。おっと(制する)座ったままで結構だ。

と、その時ナミが入ってくる。

ナミ　失礼します。

アツシ　！

ナミ　(気付く)あれ？小澤君。あなたも入るの？物理部。

アツシ　あ・・・うん！

片山　へい、レディ！君も入部希望者かい？

ナミ　はい。一年の竹内ナミです。よろしくお願いします。

片山　俺は、いや、私は向陽台高校物理部ジェネラルマネージャーの片山修だ。サムと呼んでくれ。

ナミ　はい！サムりん。

アツシ　！

アツシ、ナミ、ソファアに座る。片山、部長席に座り、ゆっくりタバコに火をつける。

#3

下校するアツシ。後ろからナミ追ってくる。アツシの肩を叩き・

ナミ やあ！

アツシ !お、おう。

ナミ 一緒に帰ろう。

アツシ ・・・いいよ。

2人、歩く。

ナミ 面白そうだね、物理部。それにサムりんも。ちょっと格好いいし！

アツシ ええ！

ナミ ?

アツシ ・・・あの、竹内さんはどうして物理部に入ったの？

ナミ パソコンを使いこなしてみたかったから。パソコンが使えたらこれから先いろいろと便利じゃない？就職とかにも役立つしね。小澤君は？

アツシ 僕も竹内さんと同じかな。中3の時にパソコンの授業を受けて、一応ワードとエクセルは使えるけどなんか物足りなくてさ。僕、将来パソコン関係の仕事に就きたいから、物理部でいろいろ勉強したいと思って居るんだ。

ナミ へえ、そうなんだ。あ、私こっちだから。じゃ、また明日ね。

アツシ うん、じゃあね。

2人別の方向に去る